

関係のあり方等についてさまざまな意見が出され、その結果、今次総会で表明された意見をうけて、さらに原案を練り直し、次回総会に再提出することになった。

「日本学術会議会員の選挙権及び被選挙権停止の申立てに関する再審査の裁決について」及び「当選無効の申立てに関する再審査の裁決について」の両提案は、第10期会員選挙に当って、選挙規則違反があつたとして、1有権者が昨年1月行なつた申立てに対し、同年9月、中央選挙管理会がこれを棄却したこと(原決定)を不服として再審査を請求した事件である。前者については選挙規則の解釈、規則適用の妥当性、情状、選挙制度のあり方等に関し、活発な意見表明がつづいたが、投票の結果、原決定の一部を取消し、被請求人の選挙権、被選挙権を2期にわたって停止する裁決がなされ(賛成75, 反対32, 保留24)、後者は多数の挙手で採択された。

また、「救急医学に関する研究教育制度の確立について(申入れ)」については、その必要性を前提としながらも、救急医療体制のあり方の問題などについて意見が出され、表現の修正を運営審議会に委ねて採択した。

さらに「冷害凶作の構造究明について(要望)」が提案され採択された。これは東日本の冷害凶作の発生構造の自然科学的、社会科学的研究を推進する措置を構じ、研究の成果を農政に反映させることを政府に対して求めたものである。

以上の外、「環境影響評価制度の立法化される場合の措置について(申合せ)」については、情勢の推移に応じて適切な措置をとることを運営審議会に委ねることとした。また、平和問題研究連絡委員会に分科会を設置し、総合研究連絡会的運用をすることを申合せた。

〔自由討議〕 第3日の午後、わずかの時間ではあつたが、懸案の諸課題について自由討議を行なつた。

(1) 日本学術会議の改革構想策定小委員会の「改革構想の大綱(案)」については、本会議の制度的性格、つまり、国家機関でありながら同時に政府に対し独立性を保持することの意義、そこから起る問題点などに論議が集中した。

(2) 「第10期の活動の取りまとめ」については、第10期における各委員会の審議を基礎としながらも、長期的な科学技術政策の立案により一層寄与できるものにするべきだとの意見が強かつた。

(3) 「科学者憲章(仮称)第一次草案」(人間と科学特別委員会)については、科学研究の限界についての考え方、科学者の義務と責任のあり方等、内容上の問題が指摘されたほか、文章表現を平易で説得力のあるものにして欲しいという要望が出された。

(4) 婦人研究者の地位の問題について、科学者の地位委員会から説明があり、制度上の問題と非制度的で社会的経済的な問題とを区別して扱うこと、この場合後者については研究者全体のかかえている問題との関連を軽視すべきでないとの指摘があつた。さらに早い機会に勧告草案を作成し、十分な検討の機会を確保して欲しいとの要望もなされた。

閉会に当って、オブザーバーとして出席した我喜屋良一琉球大学教授、照屋寛善沖縄県公害研究所医監を代表して、我喜屋教授が謝辞を述べられた。

総会出席率は、第1日からそれぞれ 88%, 90%, 86%であつた。(学術会議広報委員会)

#### 第26回国際純正応用化学連合化学会議における 研究発表申込みについて

1977年9月4～10日に東京赤坂地区で開催される標記国際会議における研究発表申込みは、3月15日が締切り日です。これに引続き9月12～16日に京都国際会館で開催される第8回国際有機金属化学会議の研究発表申込み締切りも3月15日です。ともに資料及び申込用紙が次に準備しておりますから200円切手同封にてお申込み下さい。なお、海外国際会議にご出席の方は、1st サーキュラーの準備がありますから携行のうえ宣伝にご協力下さい。ご請求あり次第必要部数を急送します。

101-91 神田郵便局私書箱 56 号 IUPAC 係  
お問合わせは日本化学会(電 03-292-6161)  
IUPAC 係へ

### 正 誤 表

「鉄と鋼」第62年(1976)第13号, p. 1668

川和高穂, 細田義郎, 坂田直起, 伊藤雅治, 三好俊吉

上記掲載論文のテーマが次の通り誤りがありましたので、訂正いたします。

(誤) 鋼塊内ザク分布と鋼板の方向紋りにおよぼす鑄型形状の影響

(正) 鋼塊内ザク分布と鋼板のZ方向紋りにおよぼす鑄型形状の影響